

新基地建設反対名護共同センターニュース

テルヤ候補の出発式 オール沖縄が勢ぞろい

うるま市長選挙が18日告示され、「オール沖縄」勢力が推薦するテルヤ寛之候補が同市内で出発式を行いました。

テルヤ寛之候補は「市政の主人公は市民だ。市民の声を聴いて市政を刷新する。コロナ対策では玉城県政と協力して事業者と市民を守っていく」と力強く決意を表明しました。玉城デニー知事が「テルヤ候補の勝利で新時代沖縄と共に新時代うるまをつくっていきましょう」と応援演説しました。出発式には赤嶺政賢衆院議員など県選出の国会議員5人全員、衆院選予定候補、瑞慶覧朝敏南城市長、野国昌春北谷町長、県市町村議員など「オール沖縄」が勢ぞろい。25日の投票日まで全力で奮闘し、必勝を誓いあいました。市長選は中村正人候補（前市議・自公など推薦）との一騎打ちとなっています。



テルヤ寛之候補 玉城デニー知事（左）とテルヤ氏 上は「オール沖縄」が勢ぞろいし「頑張ろう三唱」。下は大勢の支援者

市民が主人公の「新時代うるま」実現を！

デニー知事 採掘業者に「遺骨採取しないこと」求める



「採掘業者に措置命令」と報じた沖縄タイムスと琉球新報

人道土、土砂使用を認めない

玉城デニー知事は16日、糸満市米須の鉢山開発計画を巡り、業者の採掘許可に対し、自然公園法に基づき風景を保護するための必要な措置を命令すると発表しました。知事は遺骨を含む土砂の使用に関し、「辺野古埋め立てでも宅地造成でも人道的な観点から認められない」と指摘、業者からの弁明内容を精査した上で、措置命令の内容をさらに協議するとしています。遺骨収集ボランティア「ガマフヤー」代表の具志堅隆松さんなどが求めていた開発の禁止命令まで踏み込まなかったことについてデニー知事は、「法制上の問題がある」と説明しました。

根源の新基地計画を止めよ

17日付けの琉球新報は社説で「根源である埋め立てを止めよ」と見出しを立て、「遺骨が眠るであろう土砂を戦争につながる基地建設に使わせないためには法律の壁がある。必要なのは政府の決断だ。すなわち辺野古新基地建設断念である」と主張しました。

また、沖縄タイムスは同日付けの「視点」で「今回の問題は本来、（遺骨収集に）積極的に向き合うべき国の戦後処理への不誠実な対応が招いたとも言える」と「痛みの連鎖は国の責任で断ち切るべきだ」と指摘しました。

県議会の「全会一致で意見書可決」を歓迎



ゲート前の監視活動続く
車両は連日130台ほど基地内へ

辺野古ゲート前では抗議活動を自粛し、少人数で監視活動を続けています。16日は、県統一連・瀬長和男事務局長など20人が監視しました。沖縄県議会が前日の臨時会で沖縄戦没者の遺骨などが混入した土砂を埋め立てに使用しないことを求める意見書を全会一致で可決したことを受け、瀬長氏は「よかったです。デニー知事が防衛局の設計変更申請を不承認とすることへの追い風になると思います」と語りました。コロナ禍でも工事車両は連日130台ほどが基地内に入っています。

写真：基地内に入る車両をチェックする瀬長氏（左端）ら

辺野古埋め立ての現状と課題 ヘリ基地反対協が学習会

ヘリ基地反対協は16日、名護市内で「辺野古埋め立ての現状と課題」と題して学習会を開催、40人余が参加。講師の北上田毅氏（平和市民連=写真）は、辺野古側だけでも埋め立て完了までまだ数年かかる。今後、国の設計変更申請を県は連休明けに不承認とする予定であり、美謝川切り替え問題、南部の遺骨混じりの土砂調達問題などもあり「たたかいはこれからが重要」と話しました。



東恩納と豊島氏も共同代表に選出

ヘリ基地反対協議会は先ごろ開催した幹事会で共同代表として安次富浩氏に加え、新たに東恩納琢磨氏（名護市議）と豊島晃司氏（医療生協）を選出しました。